

「地球温暖化に対応する技術開発・普及に関する検討会」の開催について

令和6年(2024年)2月14日
北海道農政部 生産振興局
技術普及課 調整係(研究連携班)
担当: 齋藤 (☎011-204-5380)

令和5年(2023年)の道内は記録的な高温が続き、農作物の生育が平年より早く進んだ一方で、一部の地域やほ場では、高温に起因すると思われる生育不良や変形、病害虫等が発生し、家畜の食欲減退や熱中症の発生が見られました。

これを踏まえ、道では、道内の試験研究機関、普及組織、関係機関・団体を参集し、令和6年の営農でも取り組める既存技術の活用・普及や、今後取り組むべき技術開発について共有を図るとともに、連携して対応していくことを目的として、「地球温暖化に対応する技術開発・普及に関する検討会」を開催しました。

| | |
|------|--|
| 開催日時 | 令和6年(2024年)1月17日(水) 15:00~16:40 |
| 会場 | TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前5Cホール (札幌市中央区北4条西6-1 毎日札幌会館 5階) |
| 参集 | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構農業研究本部 公益社団法人 北海道農産基金協会 一般社団法人 北海道農産協会 北海道農業協同組合中央会 ホクレン農業協同組合連合会 農林水産省北海道農政事務所【オブザーバー】 北海道農政部【事務局: 技術普及課】 |

【議題等】

1 本検討会の目的と概要について

道農政部から開催の趣旨と今後の施策の進め方について説明。

- ・ 資料1「地球温暖化に対応する技術開発・普及に関する検討会について」
- ・ 参考1「営農技術対策とは」
- ・ 参考2「研究課題の決定の流れ」

2 令和5年の気象経過について

道農政部から3月から10月までの各月の気象(気温・降水量・日照時間)の経過と推移について説明。

- ・ 資料2「令和5年全道の気象経過について」

3 令和5年作における各作物への影響について

(1) ホクレン農業協同組合連合会から主要農作物(水稻(主食用)・小麦・馬れいしょ・豆類・玉ねぎ・てん菜・生乳)の収穫量(見込)・作況指数・品質等に関するコメントについて報告。

- ・ 資料3「令和5年産主要農作物の作柄と畜産物の生産動向」

- (2) (公社)北海道農産基金協会及び(一社)北海道農産協会から主要農産物(水稲・小麦・馬れいしょ・大豆・小豆・てん菜)について、高温による被害の状況を報告し、生産者向けに作成した資料(てん菜・小麦・水稲)を紹介。
- ・ 資料4-1「令和6年度のてん菜栽培に向けて」
 - ・ 資料4-2「令和5年産小麦 観測史上最高の高温登熟下における作柄と今後に向けた栽培のポイント」
 - ・ 資料4-3「令和4年 高温登熟期の「胴割粒」発生防止対策」

4 高温等の被害状況と対応事例について

道農政部から全道の農業改良普及センターから報告のあった水稲・畑作(小麦・豆類・馬れいしょ・てん菜)・園芸作物(野菜・花き・果樹)・畜産(牛・飼料作物)の被害状況と高温対策事例について説明。

- ・ 資料5「2023年に発生した高温等の影響と対応事例」

5 高温等に適応するための試験研究等の現状と課題

- (1) 農研機構北海道農業研究センターから「農業における影響・適応策に関する農研機構の調査研究」として、気温上昇と大気中の二酸化炭素濃度の増加を組み合わせた2050年代の予測モデルにより、作物とその産地(水稲・馬れいしょ・秋まき小麦・ワイン用ブドウ・リンゴ)へのリスク評価について説明。
- ・ 資料6「高温等に適応するための試験研究の現状と課題」

- (2) 道総研農業研究本部から「高温障害における基本戦略と戦術(水稲作)」として、当面の対策は冷害の場合と同様に作物の温度反応に応じて適正な水や施肥などの管理を行うこと、さらに現在取り組んでいる品種改良の状況について説明。
- ・ 資料7「高温等に適応するための試験研究の現状と課題」

6 今後の対応に関する意見交換

上記3～5の報告・説明を踏まえ、栽培技術と品種改良について意見交換。

【今後について】

既存で活用可能な技術等は、道内外の対応事例等を収集・考察し、順次、必要に応じて営農技術対策(定期・臨時)を発出し、普及に取り組むほか、作物別に開催する講習会や普及センターによる営農指導などを通じて農家の方々に情報提供を行っていきます。

さらに、今回の検討会での議論や地域からのニーズを踏まえ、品目毎に北海道農業試験会議等で検討の上、今後の試験研究課題に反映させ、新たな品種や技術の開発につなげていきます。

また、このような検討会については、出席団体から継続的な開催を望む発言があったことも踏まえ、令和6年度の気象経過や技術開発・普及の進捗状況を見極めながら、必要に応じ、開催を検討します。

※ 当日の資料(PDF)は次のQRコード又はURLのサイトからダウンロードできます。



<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/gjf/176861.html>